

TRICOLOR

大会・公式戦結果

Top

【神奈川県社会人サッカーリーグ1部(KSL-1)】

▼第2節	
vs 六浦 FC	1-0○
▼第3節	
vs 横浜 GSFC コブラ	3-2○

Youth

【日本 CY(U-18)関東1次予選】

vs FC Balzo	1-1△
-------------	------

Junior Youth

【県 U-15 リーグ】

vs クラブテアトロ JY	4-1○
---------------	------

小6

【全日本少年サッカー大会県大会】

(第20ブロック)

▼1回戦	
vs 豊田少年少女	6-0○
▼2回戦	
vs 船越 FC	1-0○
▼準決勝	
vs 瀬谷サンダーキッズ	3-0○
▼決勝	
vs 野庭キッカーズ	0-1●

Papas

☆マスターズリーグ

【県マスターズリーグ】

vs 平塚	0-3●
-------	------

☆Rec

【県シニアリーグ四十雀4部】

vs 平塚シニア	0-0△
----------	------

☆Comp

【県シニアリーグ四十雀3部】

vs 足柄上シニア	3-2○
-----------	------

今、グラウンドでは・・・

Top

【開幕3連勝！】

県リーグは5月に2試合行いました。昨年2位の六浦 FC とは 1-0 終了間際の 29 堀田の豪快なゴールで勝利、また、昨年3位の横浜 GSFC コブラとは、前半1点ビハインドで折り返し、かつ、かながわクラブは退場者を出す不利な状態から、3-2 の逆

転勝ち、これで4月のブレッサ相模原の試合を含め昨年の2~4位までのチームに対して開幕3連勝、また、開幕して間がないこの時点ですが、県リーグの単独首位に立っています。

勝因はもちろん田村監督の采配にもありますが、それぞれの役割をこなして、自分たちのやろうとしていることがチームとしてまとまりつつあると思います。たとえば、昨年まで4-4-2のシステムだったのが、今年は4-5-1(4-2-3-1)と言うシステムに変え、それぞれのポジションで役割をはっきりさせていることが特徴です。4バックの特にサイドバックの役割は守りだけではなく攻撃の基点になる、2ボランチは中盤のスペースを埋めてサイドにボールを散らす、両サイド MF はサイドのスペースを埋めつつサイドからの攻撃の基点になり、また、相手のサイドからの攻撃を阻止する、トップの選手は相手 DF ラインを動かして中盤にスペースを作り、さらに動きすぎることなく味方のパスのターゲットになる、などなど今までやろうとしてきたことがさらに明確になってきて、練習からそういうことに取り組めるようになりました。

しかし、県リーグ首位に喜んでいて暇はありません、まだまだこれから長く厳しいリーグ戦が続きます。今年のトップチームの試合は本当に見ごたえがあるので、ぜひ応援にいらしてください。(中本 洋一)
 ※今月は「Top 選手紹介」をお休みさせていただきます。

Youth

【神奈川県 U-18 リーグ】

今年からスタートする表記大会ですが、これには大きな意味合いがあります。

2006年のドイツワールドカップの結果を踏まえ、(財)日本サッカー協会の技術委員会で議論された後、今年度より、全47都道府県で一斉に学校とクラブの垣根を取り払って始まるものです。

将来に向け、日本サッカーを強化する方策がいくつか論じられましたが、中でも重



FOR ALL SPORTS OF JAPAN
 スポーツ振興くじ助成事業

視されたのが「リーグ戦文化の醸成」でした。

これまで、特に高校や中学で行なわれる大会のほとんどがトーナメント方式であったことから、まずはリーグのような「基軸となるリーグ戦」を行い、その合間にカップ戦を行うという考え方です。そしてその基軸となるリーグ戦が今回のU-18リーグです。高校選手権予選実施方法の整備など、発想を大きく転換しないとできない部分が多く、我々大会実施委員は頭を悩ませながら進めています。

県内では、トップリーグは「KS」(8チームリーグ)、その下に「K1」(8チーム×2リーグ)、「K2」(8チーム×4リーグ)、「K3」(8チーム×13リーグ)と続きます。

KSリーグの上には、「関東プリンスリーグ(PL)」があり、優勝チームは他の都県リーグ優勝チーム(8チーム)とともに参入戦を戦い、勝ち残った4チームがPLに昇格できます。

一方、K1、K2優勝チームは上位リーグに自動昇格、7・8位は下位リーグに自動降格します。もちろん、KS下位2チームも自動降格です。

K3優勝の13チームは、12月に昇格決定リーグを行い、8チームがK2昇格となります。

リーグは節(試合日)を極力統一することが求められていますが、旧来の大会との絡みから思うに任せません。それでも短期集中を避け、M-T-M(試合→問題点を練習で修正→試合)が実施できるようには組むことができるようになりました。

本クラブはK3からのスタートとなりますが、当然目標はK2昇格です。持てる力を十分発揮できれば、可能性はかなり高いと信じているのですが・・・。

以下、日程です。たくさんの皆様の応援をお待ちしています。(内田 佳彦)

期日	会場	Kickoff	対戦
6/21(日)	緑園総合高	12:50	横浜平沼高
6/27(土)	金沢総合高	16:00	横浜清風高
7/12(日)	港北高	10:40	公文国際高
7/30(木)	港北高	9:00	港北高
9/23(祭)	金沢総合高	9:00	金沢総合高
10/25(日)	公文国際高	10:40	聖光学院高
11/8(日)	金沢総合高	14:00	緑園総合高

Junior Youth

現在は、学校行事やテストのため全員そろうての活動が難しい時期に入っています。

さて、今年は6月から始まる「県U-13リーグ」に参加することになりました。5月から始まった「県U-15リーグ」と平行して行われるため、1年生は少し忙しくなります。

もちろん、1年生だけで同年代の選手たちと戦えるリーグ戦は楽しみではあると思います。しかし、出場することだけで満足するのではなく、U-15リーグのメンバーに入るためのアピールの場であることも忘れないでください。1年だからU-15リーグは自分たちの試合じゃないという感覚だと、3年生になっても出場できないと思います。

(二木 昭)

小 6

全国大会県予選が終了しました。

3試合連続完封、格上相手の試合を1点差で勝利など、春季リーグ戦時とは違った精神的強さを発揮するなど、かなり評価できます。

また、登録人数制限のため、ベンチ入りできなきてもチームとともに行動したり、各自でグラウンドまでの交通を把握し、各自で行動するなど、「サッカー選手としてグラウンド外での行動」の成長もありました。ブロック決勝で敗れたため、中央大会進出はできませんでしたが、成績以上に得たものがあつたように思われます。

「相手より先にボールを触る」、「ボールを奪う身体の使い方」など、相手チームの方が上回っていた点は否めませんので、今後は「ボール扱い以外の技術」も指導していきます。

この大会での経験を自信にして、慢心することなく努力することを願います。

最後に、早朝にも関わらず、お弁当の準備や遠方まで応援に駆け付けてくださった保護者の皆様、ありがとうございました。

(高田 成典)

小 5

【親子サッカー】

5月31日(日)は、小学生の全学年で親子サッカーを実施しました。ご参加くださった保護者の皆様、おつかれさまでした。

そして、ありがとうございました。いやー、子供たちは本当に上手になりましたね。ランニングスピードが速くなったことももちろん関係しているとは思いますが、一人ひとりのボールをコントロールするスピード、前を向くスピード、考えるスピードが格段に速くなっており、近くで見ても本当にサッカー選手らしくなってきたと感じました。1年後は、簡単にドリブルで突破され、またパス回しにもついて行けず翻弄されるようになってしまうのでしょうか。普通に考えると喜ばしいことなのですが、親子サッカーに限るとこれ以上レベルアップされてしまうのは困ります・・・。

【スタイルを貫く】

良いプレーができるようになれば、もっともサッカーが楽しいと感じるようになるでしょうし、試合にもたくさん勝つことができるようになるでしょう。ただ、なんでも勝てば良いのかというと、育成の初期の段階であるこの時期に限っては、答えはノーということになると思います。今はとにかく、ゲームの中で使える技術レベルを高めることとプレーのベースとなる基本を徹底し、それらを習慣化することが最優先されるべきテーマとなります。

相手 GK の前方のスペースを目掛けて早いタイミングで繰り返しボールを蹴って、そのボールを拾い、ゴール目がけてドカーンと蹴りこむこと、そしてピンチになればとにかく相手陣地目がけて蹴り込み、また安易にタッチラインに逃げること、これらを試合開始から終了まで徹底して行なうことができれば、結果はついてきてしまうのかもしれない。ご存知のとおり、かながわクラブではそのようなゲーム運びをすることはありません。なぜなら、そのようなプレーの中から良い選手が育つことはあり得ないということを、この30年の歴史から学んでいるからです。もちろん、5年生は勝つことに執着していないというわけではありません。“勝つことだけ”にこだわっていない、という表現の方が正しいと思います。

最近の子供たちの進歩は目覚ましいとは言っても、大会に参加すれば連敗が続いてしまうような時もあります。しかし、黒星が続いているような時でもボールの支配率

やドリブルとパスのコンビネーションで相手の守備ブロックを崩していく回数は、ほぼすべてのゲームで相手チームを上回ることができており、そういった面からも特に心配はしていません。これからも目先の勝ち負けに一喜一憂することなく、自分たちのスタイルを守りながら良い内容を目指していきたいと思います。それを積み重ねていけば、結果は自然についてくるようになるはずですよ。(鈴木 章弘)

小 4

【春季大会を終えて】

春季大会は、6チーム中3位という結果で、残念ながら決勝トーナメントに上がることができませんでした。この大会で技術面・メンタル面で通用した部分・通用しなかった部分が見えてきた大会になりました。

強豪のチーム相手に必死になって食らいつき、子供たちも下位のチームに引き分け、決勝トーナメントに行けるか行けないかのギリギリの状態です。試合を戦うなどサッカーの面白い部分を体験できたことがこれからのサッカーに良い影響をもたらすと思います。今回出場時間が少なかった選手は、普段の行動(忘れ物・遅刻)・ベンチでの態度などをもう一度考えてみてください。考えられた選手は、出場時間が増えるかもしれません。多く出場できた選手は、次の大会も多く出場できるように努力してください。(努力しない選手は、出場時間が確実に減ります。)

最後に、応援していただいた保護者の方々・お手伝いして下さったスタッフの方々ありがとうございました。秋に開催される国際チビッツでは、子供たちと決勝トーナメントに上がるという目標を立て、次の目標に向かってがんばっていきますので、これからも応援をお願いいたします。

【ミニゲームを通じて】

練習の最後に行うゲーム形式の練習の前に必ず、4人対4人又は5人対5人のミニゲームを行っています。ミニゲームの練習では、攻守の切り替えや周りを見て早い判断をするなど様々な要素が取り入れられているメニューになっております。

特に4年生になってからは、ボールを

持っている選手は、「反対側のサイドを意識してプレーする」「顔を上げてプレーをする」ボールを持っていない選手には「相手と相手の間に顔を出す」「相手の位置を首を振って早く探し早くその場所へ動く」ことをテーマとしています。早い動き出し・早い判断をすることでナイスプレー・ナイスプレーを多く演出することができます。最初のうちは難しいと思いますが続けていく中でコツが見えてくるので子供たちには、集中して練習に取り組んでもらいたいと思います。(丸山 祐人)

小 3

5月になり新たなメンバーも加わり、小3は総勢19名になりました。それでも幼児・小1を除く全学年の中で見るとまだ一番人数が少ない学年です。が！。皆さんご存知の通り小3には女子メンバーが3名います。男子にも負けない元気で頑張る”紅三点”、私も他のメンバーも負けない元気で頑張りたいと思います。

【少しだけ思い出話を】

実は女子選手については忘れられない思い出があります。今では男女関係なく公式戦にも出場できますが、90年代中頃はまだ女子選手の出場には一部制約がありました。その当時私は名古屋のチームにいたのですが、その中に女子選手が一人いました。その子はスポーツ万能で中でもサッカーが大好きで女子ひとりでも何ら問題なく男子と一緒に活動していたのですが、厳しさも楽しさも経験出来るはずの公式戦には残念ながら出場できませんでした。ある大会では確認をしたうえで出場させたのですが、試合途中で本部から「至急交替させるように」と指示をされ憤りを感じたことを覚えています。その時の彼女の悔しそうな顔は今でも忘れられずにいます。しかし！それでも彼女が活躍できる機会を探したところ、「セレクションに合格すると日本代表としてアメリカでの世界大会に出場できる」という情報を入手、大急ぎで申し込み、セレクションを受けに1次は滋賀に、2次は栃木に、とご父兄も奔走、結果は見事合格!!! その時の彼女のうれしそう顔、夏休みにあったその大会に参加し帰国した後の「みんなじょうずだったよー!、た

のしかったよー!」と日焼けした笑顔で無邪気に話してくれたこと、こちらも忘れられずにいます。

(ちなみにその大会は「ディズニージュニアカップ'96」と言う大会で、日本チームのスタッフは現在もサッカー解説やなでしこリーグの監督などで活躍されている面々でした。結果は(確か)優勝だったと記憶しています。実は最近当時の参加者名簿を見たのですが、日本代表で現在アメリカで活躍している宮間あや選手をはじめ、なでしこリーグで活躍する面々の名前もありました。)

彼女はその後中学からバスケットボールに転進、大学まで国体選手として活躍しましたが怪我もあり引退、現在はあるスポーツクラブでインストラクターをしている、とのこと。彼女が「クラブで子供たちとスポーツを楽しんでいる」と聞いてうれしく思っている今日この頃です。

【水分補給】

さてさて。随分と気温が上がってきました。活動中の水分補給には気をつけていきますが、飲み物(水または薄めのスポーツドリンクなど)は多めにご準備をお願いします。(小野 津春)

幼児・小1・小2

【自分とボール】

最近の活動では、時間の多くをミニゲームに費やしています。勿論グラウンド事情もあるのですが、ミニゲームにはなかなか深い意味があるのです。多くの低学年の子どもたちにとって、今の時期は自分とボールとの関係しか認識できません。例え同じ色のピブスを着ていたとしても、自分以外は全て相手チームの選手としか考えられないのが普通です。ですからボールを持った絶対離さないように必死でプレーをします。味方であろうが、相手であろうが、近づいてくる選手から必死でボールを守ろうとします。

こうした子どもの特性を利用して、小学生年代では、徹底的に個人の技術の向上に励ませます。神経系の発達の著しい時期ですから細かなボールタッチを必要とする技術の習得を主眼に置く指導です。簡単に言うと、ドリブルを徹底して行うように仕

向けるのです。ボールを持ったら、シュートするまで絶対に離さないという我が儘なプレーを奨励し、そのことでドリブル、フェイントなどの柔らかなボールタッチを必要とする技術を鍛えるのです。大人の感覚ではパスを出せば良いのにと感じられる場面でも、敢えてドリブルにこだわる理由がここにあるのです。

とはいえ、いつまでも個人プレーというわけにはいきません。いずれパスを覚えなければならぬ時期もやってきます。単なる自己満足のドリブラーをいくら育てても意味がありません。しかし、ドリブルの技術が高く、相手をかかわす技術があってこそ、パスが効果的であることも忘れてはなりません。ブラジル人の試合を見て感じるのは華麗なドリブルよりシンプルなワンタッチのパスの多さです。ドリブルができなくて、相手を交わすことができないので、来たボールをワンタッチで動かすというのでは悲しすぎます。それではサッカーの面白さを十分に楽しむことができないのは言うまでもありません。

【2人対2人～4人対4人】

優先順位としては、まず個人の技術を向上させることです。それには神経系の発達時期からしても、子どもたちの特性からしても、小学生の低学年は最適なのです。それから徐々に2人対2人、3人対3人、そして最終的には4人対4人というように発展させていきます。人数を増やすことで、自分とボールとの関係だけではなく、自分とボールと仲間(味方)という関係に気づきます。パスを出そうとすれば出せる味方の存在を認識するのです。更に3人、4人となるにつれて、ボールがないときの動き方を考えるようになります。最初は団子状態になるのは止むを得ません。まだまだ味方という存在に気づくことができないし、気づいたとしても、それを利用する術を持っていませんから。フルコートの試合でも同様に、かながわクラブの子どもたちは、ある年齢まではお団子サッカーに終始します。

そうしながら、団子状態を離れて見ている子どもたちが出てきます。次にここにボールが出てくるのではないかと予測しながら…。また、どうしても相手の11人全員

を抜くことは不可能だと気づく子どもや、更にはもっと効率よく楽に点を取る方法がないかと考える子どもも出てくるのです。

【気づかせる指導】

この「気づくこと」がとても大切なのです。訓練で体に叩き込まれたり、頭ごなしに押し付けられたりしたことは、一時期は身についたかのように思われますが、少し変化が加わったり、状況がやや違ってきたりすると全く応用が利きません。しかし、自らが気づいて身につけたものは、必要性を感じて身につけたものですし、多少の変化に対しても柔軟な対応ができるはずで

では、全ての子どもたちに気づかせるためにはどうするかというと、多くを教えないうことになるのでしょう。教え込まずに見守っていると書いても良いでしょう。子どもたちに失敗を数多く経験させ、そこから解決策を考えさせるのです。こうしたやり方は、子育てにも多少通じる部分もあるので、お父様やお母様方には釈迦に説法かもしれませんが、私どもかながわクラブでは常にこうした考えで子どもたちとの関わりを大切にしていることをご理解いただければと思います。(佐藤 敏明)

Papas

【シニアリーググラウンド提供問題その4】

グラウンド提供義務と課徴金問題については、5月16日の代表者会議でも結論に至っておりません。動きがあり次第報告します。

【チームとクラブ】

普段何気なくチームやクラブという言葉を使っていますが、この二つの言葉はどう違うのか、使い分けているのかなど、愚考してみました。

辞書を見ると、「チーム【team】ある目的のために協力して行動するグループ。組。スポーツや共同作業についていわれる。「一を組む」「野球一」」、「クラブ【club】1 政治・社交・文芸・スポーツ・娯楽などで、共通の目的を持つ人々によって組織された会。また、その集会所。2 会員制を建て前とする酒場。3 ゴルフで、ボールを打つための棒状の用具。4 トランプで、三つ葉…。」などとあります。

チームですが、私たちが大会や試合に臨む時に編成するのがチームであり、11人以上の選手と監督、コーチなどで構成されます。このチームを編成するということは、基本的には日本代表チームを編成する作業と同じですが、対象と目的が違います。我々が Papas のチーム編成は当然のことながら編成対象の選手は Papas に登録している選手の中からですし、大会要綱等で年齢制限があればそれに従います。このチーム編成の対象選手は、かながわクラブというクラブ組織の中の Papas という壮年男子カテゴリーに登録している選手となります。かながわクラブには、幼児から Papas の「アラ還」まで 280 名ぐらい所属していますが、そのうちの概ね 30 歳以上の 60 名ぐらいが Papas カテゴリーです。この中から試合や大会の要綱に合わせて選手を募集し監督等を定め、チームを編成しています。現在、Papas の恒常的なチーム編成は、Rec、Comp、Over40、Masters の四つで、その他に練習試合などその都度臨時編成するチームがあります。もっとも恒常的な四つのチームでも必ずしも選手が全員出席とはならず、試合の都度に参加選手の欠席確認を行っていますので、臨時編成のようになってしまう時もありますが…。

Papas カテゴリーに登録しているメンバーがどのチームに参加するかあるいはしないかは、チーム間で人数や技量のアンバランスを生じる危険性はありますが、あえて本人の自由意思のみにより決定しています。もちろんセクションを行うとか先着順の人数制限とかの選抜を行うことも可能ですが、現状では一切行っていません。そうしたこともあり、この四つのチームはここ2、3年、いずれも試合参加選手の不足に悩まされています。編成チームを二つないし三つに減らし、参加するリーグを少なくすればということも考えられます。本年度の編成に当たりまして、クラブスタッフ内部では、大激論を展開して昨年同様の編成に落ち着いたところです。

この恒常的なチームのチーム編成の目的というか目標、狙いですが、我が Papas の場合ではできるだけ多くの Papas メンバーに良質な試合環境をできるだけ多く

提供したいということに尽きるでしょう。良質な試合環境とは、試合は相手方チームと審判と試合会場が良好で適切であるということになります。相手方がどんなに素晴らしいチームでも、わが方との力量差が大きすぎますと強すぎても弱すぎても試合が楽しくないどころか、怪我や故障の原因にもなりかねません。優れた審判によるコントロールは安全で円滑な試合の根源であります。またよく管理された天然芝や人工芝など素晴らしい施設は、安全で快適な試合を私達に提供してくれます。

これに対してクラブは、こうしたカテゴリーの集合体で組織としての機構と機能を有していることが求められます。チームは一試合こなせばそれで目的を達成したといえるでしょうが、クラブはこうしたカテゴリーやその中のチームが、持続的に活動していくための組織的、財政的、施設的な基盤が必要であります。いわゆるヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源の有機的な結合であり、一般の企業経営と変わるところはありません。

かながわクラブというクラブも、Papas というカテゴリーも、Papasが編成するチームも、それぞれ課題を抱えております。たとえば、チームに関して言えば、人数が少なくなくて30代の恒常的なチーム編成ができないとか、年齢構成の変化からそろそろ来年あたりからは40代のチームを1チーム減らして50代のチームを編成する必要があるとかであります。いずれにせよ、メンバーの理解と協力が必要ですので、ご意見ご要望があればご遠慮なくPapasスタッフまでお寄せください。またこの紙面を使いながらお知らせしていきたいと思いません。

(茅野 英一)

ヨーガ

【ヨーガ療法でストレスマネジメント】

ヨーガを実践するようになって、自分の中でいろいろな変化が起きています。見た目と違って気が小さくて神経質な私。(あ、今、笑いましたね。本当なんですってば)それでもなんとか人前でも落ち着いて今のような仕事ができるようになってきたのは、ヨーガのお陰です。このヨーガの心への効果をもっと生かせないかと考えるよ

うになりました。

今、日本人の約3%がうつ病を患っているとされます。心身症(心の不安定な状態が身体の不調として現れた病気。胃潰瘍をはじめ多くの疾患が含まれます。)を含めどんなに多くの人々が「精神」が原因で苦しんでいるのでしょうか。

ここにヨーガを役立てたいと思うのです。

特に、職場でのストレスをその場で解消することができたら最高だと考えました。

そこで先日、企業のメンタルヘルス担当の方々に向けてのセミナーを行いました。そうです、「職場でヨーガ」の売り込み大作戦です。なんと、14社15名の方々に参加いただきなかなかの盛況でした。

セミナーは60分間。最初に簡単にヨーガ療法の説明を行い、その後にヨーガ療法を実際に体験していただきました。なかなか良い反応で、その後も話が進み、今月中に某大手企業に出向いて職場で実際に体験会を開催することになっています。

やはりニーズがあるようです。今回の「職場でヨーガ」は職場にいて手ぶらで参加できるようなプログラムを考案しました。普通のヨーガクラスは動きやすい服装で、ヨーガマットを敷いて行いますが、普段働いている服装のまま、会社にある会議室などで気軽にできるように配慮しました。

そして、その内容はヨーガ療法学会のお墨付きです。

きっと、ヨーガの最先端! きっと、広がっていくと思います!

そして、もっと多くの人にヨーガで幸せになっていただきたいです。(伊藤 玲子)

たわごと 理事長の戯言

【我家の倉庫】

我家の真ん前に郊外型の巨大ドラッグストアができました。最近横浜でよくお目にかかる〇イット・ケア・〇〇です。ご存知のように、医薬品や化粧品のみならず、日用品や文具、食料品、お酒まで売っています。我家の倉庫(冷蔵庫付)の出来上がりです。(内田 佳彦)

夏休みの活動予定

クラス	曜日	時間帯	場所	遠征・大会・合宿	その他
幼児・小1	日	9:30-11:00	港北小	なし	■小学生海洋キャンプ (NPO 湘南ベルマーレと共催) 7/25(土)~7/30(木)/5泊6日 YMCA 阿南国際海洋センター (徳島県阿南市) 小3以上 ■ファミリーカヌー教室(日帰り) 8/2(日) 清川村宮ヶ瀬湖カヌー場
小2	日	9:30-11:00	港北小		
小3	日	11:00-12:30	港北小		
	水・金	16:40-18:00	大口台小		
小4	日	12:30-14:00	港北小		
	水・金	16:40-18:00	大口台小		
小5	日	14:00-15:30	港北小		
	火・木	16:00-17:20	港北小		
小6	日	15:30-17:00	港北小	■合宿(JYと合同) 7/23(木)~7/25(土)/2泊3日 中伊豆ワイナリーヒル	
	火・木	16:00-17:20	港北小		
Junior Youth	火・木・土	<火・木> 9:00-15:00の間 <土> 9:00-17:00の間	港北小 三ツ池 他	■合宿 7/23(木)~7/25(土)/2泊3日 中伊豆ワイナリーヒル ■遠征(ともに1泊2日の予定) 中2・3/水戸遠征(8月下旬) 中1・2/栃木遠征(8月初旬) ■高円宮杯県予選 8/29(土)~	■水・金・日 曜日 試合の場合あり
Youth	火・木・土	17:00以降	港北高 新羽中 他	■遠征なし ■KCYリーグ	■8月は16:00以降 ■水曜日試合の場合あり
Papas	日	8:00-9:30	港北小	なし	

【注意】

- ①これは、現時点での予定ですので、時間帯や場所に変更になる場合があります。あくまでもひとつの目安とお考え下さい。
- ②8月のお盆時期【8/10(月)~8/17(月)】は、活動及び事務局はお休みとなります。
- ③上記以外の曜日に試合が入ることもあります。